

シーズ募集申込要領

1. 募集期間

令和6年11月27日（水）～ 12月26日（木）

2. 応募資格

インフラメンテナンス国民会議に加入している会員

※申込みにはインフラメンテナンス国民会議への加入が必須となりますので、加入していない場合下記 URL より会員申込みをお願いします。（登録・年会費無料）

<https://jcim.jp/member/apply/email>

3. 応募資料

応募にあたっては、以下の資料が必要となります。様式については国土交通省四国地方整備局のホームページよりダウンロードすることができます。

【URL】

<https://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/infrastructure-maintenance/needsseeds/seeds1127.html>

- ①インフラメンテナンス国民会議 四国フォーラム シーズ調査票
- ②調査票補足資料（任意）

※選定にあたって新たに必要となった資料の提出等について、別途応募者に求めることがあります。

4. 資料作成要領

- ・提案するシーズが複数ある場合は1つの提案に対して1ファイルでの作成をお願いします。
- ・ニーズ番号は別紙1「令和6年度 施設管理者からのニーズ一覧表」の該当するニーズ番号を記載下さい
- ・技術概要は30字以内でその技術の内容及び特色が容易に理解できるものとし、商標等も記入してください。
- ・概要説明には情報提供を予定しているシーズ技術の概要、コスト面、適用条件、アピールポイント、開発状況、その他参考内容の記載をお願いします。

5. 提出方法

提出方法は原則 E-mail とし、一度に送付できるファイル容量は 10 MB までとします。10 MB を超える場合はファイルを分割し送付してください。

6. 申込み後の流れについて

四国地方フォーラム内で応募者の中から書類選考により決定し、応募者へ通知を行います。その際にピッチイベントの開催等についてお知らせさせていただきます。

7. 知的財産権に関する留意事項について

ピッチイベント参加者には「インフラメンテナンス国民会議運営上の知的財産の取扱いに関する事前の取決めとなるガイドライン」を通知いたします。

8. 著作権に関する留意事項について

ピッチイベント参加者は、提出した資料等に係る著作権に関し、企画委員会等が当該資料を利用（複製や公衆通信などを含みます）することを許可することとし、また著作者人格権を行使しないことに同意することとします。

また、提出資料に記載された文書、図表、写真、イラストなどの著作権等に留意し、使用許可が必要な場合は、参加者の責任において必ず許可を得ておくこととします。

9. 提出・問い合わせ先

四国地方整備局 企画部 広域計画課 藤田・矢野・橋本 まで
TEL:087-811-8309 E-mail:skr-kouikikei@mlit.go.jp

令和6年度 施設管理者からのニーズ一覧（第2回）

ニーズ番号	土木分野	ニーズ分類	対象とするニーズ	条件等
24_1_1	道路	新技術の導入	路面性状調査における点検業務	実際に損傷、劣化している箇所と、工事による舗装復旧箇所との判別を、AI技術を使用することにより効率的に判断できる方法を知りたい。 排水管、配水管の埋設箇所は、帯状に舗装復旧しており、振動などで損傷と判断される場合があるため、AI技術で判別できれば調査効率が向上すると考えます。
24_1_8	道路	組織・体制の強化、人材育成	市道に係る認定区域、舗装構造や工事履歴等の情報一元化の手法	現在、本市では財産管理、機能管理、日常管理と道路管理者が複数の部署に分かれている。そのため、情報が点在しており、検索に多くの時間を要している。 そこで、担当職員が閲覧できるよう各種情報を一元化するとともに、AIやICT技術の活用により収集できるメンテナンスデータを連携することができるプラットフォーム構築の手法を知りたい。 さらに、道路だけではなく、水路や河川等に拡充していくことで、総合的な整備計画等に利用可能な手法があれば知りたい。
24_1_11	下水	その他	下水道圧送管の調査及び点検について	一部のマンホールポンプには平面位置しかわからない圧送管があり、縦断（深さ方向）が不明な箇所があり点検箇所の選定に苦慮している。 圧送管の埋設高さの調査について、効率的かつ安価な調査方法を知りたい。また調査後に点検が必要となった圧送管についても効率的かつ安価な点検・診断方法を知りたい。
24_1_12	営繕	その他	公営住宅の水回りの点検について	公営住宅の水回りの効率的かつ安価な点検・診断方法を知りたい ※水回りに関しては予防保全の対策を講じることが難しいため、不具合が起ってから修繕する、という対応になっている。特に、配送管にあたっては、地下や構造物等に埋設されているものもあるため、不具合の原因の特定に時間を要している。
24_2_1	道路	新技術の導入	橋梁の点検における新技術の活用について	道路メンテナンス事業において、橋梁点検業務を実施しており、今年度から3巡目が開始され、国からも新技術の活用によるコスト削減効果について数値目標を求められています。 特に点検手法の中で、吊足場での点検や点検車による点検等がある中、このような点検手法より安価で実績があり、効率的に点検が行える新工法があれば知りたい。
24_2_2	河川	新技術の導入	河床整理・河道掘削における河川の堆積土量の把握に係る土量調査（図面・数量）について、新技術の導入等により予算削減・業務の効率化	<背景> 河床整理・河道掘削について、試行的にUAV（ドローン）による写真測量を実施し、3D点群システム・3DCADを使用して、河川の堆積土量の把握を検討しているが、草木が繁茂している場合に点群システムが適切に作成できず、堆積土量の図面、数量を把握できないことが課題となっている。 このことから、草木が繁茂している状態においても、堆積土量を適切に把握できる新技術の活用を検討したい。 河床整理・河道掘削における河川の堆積土量の把握に係る土量調査について、草木が繁茂している場合でも適切に土量を把握でき、職員の労力削減が図れること